



MASUDA City Council News

ますだ市議会だより

2026

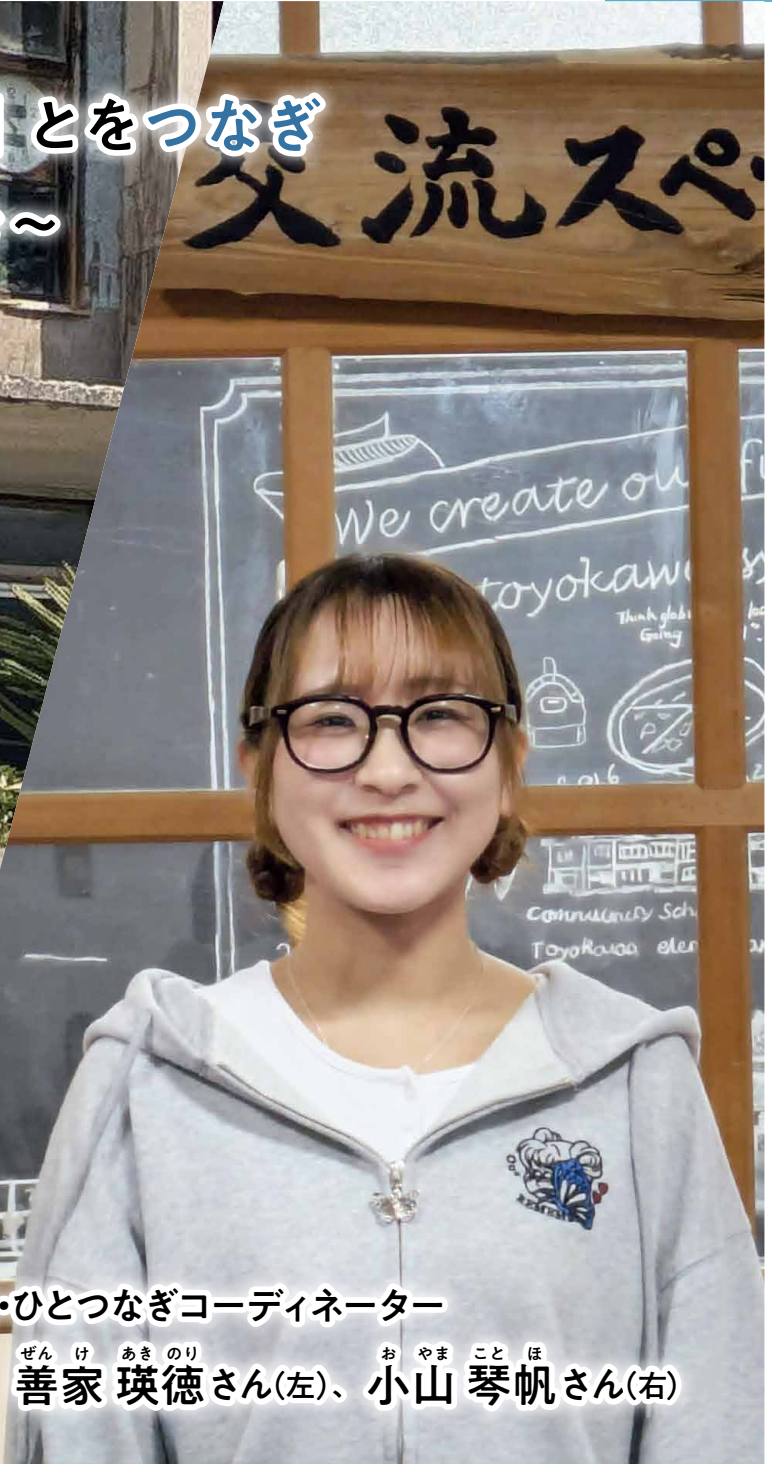
6

June

No.157

～「ひと」と「ひと」とをつなぎ
地域の未来を育む～

交流スペース



ふるさと・ひとつなぎコーディネーター

ぜん け あきのり おやま ことほ
善家 瑛徳さん(左)、小山 琴帆さん(右)

主な内容

P02~03▶▶ 益田市高校生議会

P04~11▶▶ 一般質問

P12▶▶ 審議結果

P13▶▶ こんなことが決まりました

P14~15▶▶ 常任委員会審査結果

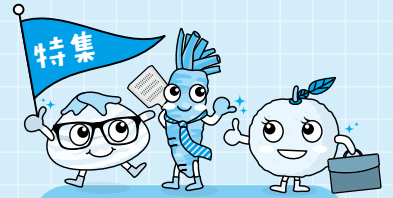
P16▶▶ 市民インタビュー、編集後記

令和8年6月1日発行

編集・発行

島根県益田市議会 〒698-8650 益田市常盤町1番1号

TEL : 31-0490 FAX : 23-0920 e-mailアドレス : gikai@city.masuda.lg.jp



益田市 高校生議会



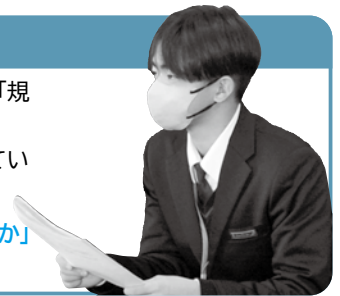
当市議会では、主権者教育支援事業の一環として「益田市子ども議会」を実施しており、今回で11回目を数えることとなりました。去る令和8年1月27日（火）に島根県立益田高等学校2年生の生徒の皆さんを対象に実施した「高校生議会」の内容を特集します。

『地球温暖化により農作物が受ける影響』

- ・「益田のメロンを守りたい」という思いから調査した結果、高温障害によりメロンを収穫しても「規格外で売り物にならない」「廃棄せざるを得ない」という現実が見えてきた。
- ・猛暑は、収入減だけでなく、「ハウスに入れないほど暑い」など労働環境にも大きく影響しているものの、コスト高で対応できない農家も多いことが判明。



農家の負担を軽減するため、新規就農者に加え、「既存農家も使いやすい補助が必要ではないか」として、設備改修に活用できる支援制度の充実を提案！



『保育と初等教育の連携から考える「学びの土台」づくり』

- ・益田の「保幼こ小連携」を探究する中で、「子どもの『やりたい』を大切にする保育」に比べ、小学校では「問いが教科書中心になりがちではないか」との疑問が生まれた。
- ・主体的な学びや「子どもの声」が十分に生かされていない可能性があるのではないかと。



「子どもの声を丁寧に聞く取組が必要ではないか」として、授業や学校運営への反映を提案。併せて、映画「こどもかいぎ」の上映などを通じ、教員の理解を深め、保育と初等教育の連携強化を提案！

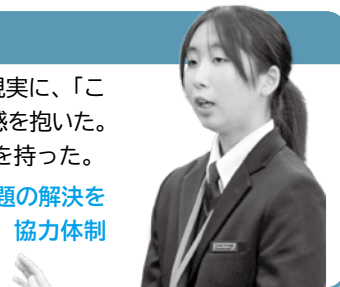


『若者の選挙投票率を上げるには？』

- ・探究を通して、若者の投票率は上がってきているものの、「まだ他の世代より低い」という現実、「これから社会を担うのは自分たちなのに、意見が政治に反映されないのではないかと強い危機感を抱いた。
- ・「政治への関心や理解は、高校生よりもっと早い段階から必要ではないか」という問題意識を持った。



「小中学生の頃からの経験が大切ではないか」として、高校生が支援しながら「身近な課題の解決を考え、投票も体験できる“子ども議会”」の実施を提案。併せて、その実現の可能性や、協力体制の検討についても提案！

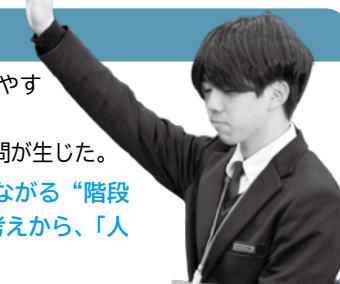


『農業の関係人口を増やすためには？』

- ・農家への聞き取りから、農業を支える人材不足に危機感を持ち、「農業に関わる人をどう増やすか」が大きな課題だと感じた。
- ・「農村体験等は就農につながっているのか」「農業者や農村関心層の交流の場はあるのか」等の疑問が生じた。



「関係人口を段階的に増やすことが大切ではないか」として、体験・交流・就農へつながる“階段型の取組”の推進を提案。その取組が結果的に新規就農者の増にもつながっていくとの考えから、「人とのつながりが重要」として、交流の場の充実や実態把握を進めることを提案！



STEP 01 準備期間

高校の探究の授業で、グループごとにテーマに沿って課題を研究。課題解決に向けて、高校生の視点から問題提起や政策提案を検討！

当日の流れ

STEP 02 高校生議会当日



高校生議会開会!



議員との意見交換



『どうすれば「学び」に前向きになれるのか』

- ・学びに前向きになるには、「小中学校期の体験や出会いがきっかけになるのではないか」と考えた。
- ・一方で、「学びの楽しさ」を実感できる機会や「自分のやりたい」を生かせる場が、十分に広がっていないのではないかという課題が見えてきた。



「半分は遊び」「子ども達に委ねる」形式のワークショップを実践した経験から、「学校外の学びや、子どもが自分らしく学べる場が必要ではないか」として、このような場づくりの全ての校区への展開と、地域全体で学びを支える取組の推進を提案！

『益田市を音楽で盛り上げるためには？』

- ・若い世代が見たい・聞きたいアーティストの公演は、広島や福岡など市外に集中していることから、「益田から出ていく若者が増える一因になるのではないか」と感じた。
- ・グラントワを活用し益田を音楽で盛り上げることが、滞在者やIターン者の増加につながるのではと考えた。



「高校生の声を届けたい」と、益高生とグラントワが定期的に意見交換できる場づくりに向け、市に橋渡し役の検討を提案。併せて、若者に魅力ある公演の充実と広報強化を提案！

『災害避難時に健康で過ごす方法～避難所での食と健康～』

- ・少子高齢化が進む益田で、災害時の食のあり方に疑問を持った。非常食は便利な一方で、「栄養が偏るのではないか」「温かい食事が少ないのではないか」という不安が見えてきた。
- ・特に、「高齢者に配慮した食事が提供できる環境なのか」という課題を重要視した。



災害時も「温かくバランスのよい食事が必要ではないか」として、炊き出しの検討を提案。併せて、「自分たちのレシピ」をクックパッド「益田市公式キッチン」への掲載や高齢者施設等への配布、市長や議員による試食・講評の機会づくりを提案！

『フェイクニュースや、SNS情報に惑わされないネットリテラシーの実践』

- ・探究の中で、SNSを通じて高校生や小中学生が犯罪の標的になること、誤った情報に惑わされる危険があること、ネットトラブルは高校生だけでは防ぎきれない現実を知った。
- ・一方、当事者・学校・警察など、それぞれが個別では対応しきれない現状も見えてきた。



「安心してネットとつながれる環境が必要ではないか」として、高校生・警察・教育委員会の三者がネット問題を共有し、リテラシー向上に向けた取組を話し合う協議体の設置を提案！

一般質問

市政のここが知りたい

一般質問とは、議員が市の行財政全般について、市と政策討論するものです。

令和8年3月定例会では、会派代表3名、個人12名の議員が登壇しました。

一般質問の記事は、決められた文字数の中で議員本人が要約し掲載しています。詳細については次の方法よりご覧ください。

●インターネット

- ・一般質問の様子の録画中継を、全会期日程終了の約1週間後から配信しています。
- ・会議録は定例会終了約3か月後から閲覧できます。

益田市議会

検索

●会議録（冊子）

- ・議会事務局、美都・匹見各分庁舎、各公民館、図書館でご覧いただけます。
- なお、3月定例会の会議録は6月に発行予定です。



●二次元コード

- ・各議員名の下の二次元コードからスマートフォンなどで質問者の動画がご覧いただけます。

会派代表質問

各会派の代表者による質問内容の一部を抜粋して掲載しています。

新政会

問 地域振興の将来展望・今後のビジョンを問う

答 住民と共に考え、地域で進めている活動をしっかりと支えていく



会派代表
はやし たくお 議員
林 卓雄



問 中山間地域振興基本条例の制定後、中山間地域振興基本計画を策定するまで三年半かかっている。条例と計画では対象地域の捉え方が異なっているが、条例制定の意図に沿った計画の推進になっているか。

答 市の全域が過疎地域として指定され、財源確保の観点からも、市全域を中山間地域として計画を策定した。各地区の地域づくり体制の構築を目指す旨を記載し、対策を急ぐべき地域も周辺部であると考えている。

問 公共交通における喫緊の課題である乗務員不足をどのように認識しているかを問う。

答 住民の日常生活に支障をきたす状況を重く受け止めている。当市も参画する島根県の呼びかけによるプロジェクトチームでの検討により、乗務員の確保・育成を支援するための補助制度が新設され、官民一体となり早急に取組む重要な課題である。

問 公共交通の維持確保には、市民・交通事業者・行政が一体となることが不可欠と考えるが、見解を問う。

答 地域のニーズをくみ取り、交通事業者と協議を重ね、相互理解に努めながら公共交通のあり方を検討する。



市内を結ぶバス

問 表 代 派 会

各会派の代表者による質問内容の一部を抜粋して掲載しています。

ますだ未来

問 令和8年度にかけると市長の不退転の決意を問う

答 対話と協調を重視する姿勢を堅持しながら
市政運営を進めていく

化していく。

問 益田市観光振興計画と第二期日本遺産を通じた地域活性化計画の推進には、一般社団法人ますだプライドクリエイション(DMO)が大きな役割を担うこととなっている。益田市観光協会や美都町特産観光協会、匹見町観光協会など、観光に関わる体制をどう整理していくのか。DMOやそれを支える体制を問う。

答 DMOは、観光振興計画の推進において中心的役割を担い、日本遺産を通じた地域活性化計画の推進では事務局を担う。観光協会については、今後の方向性等について協議が行われている。市としては観光振興推進に係る支援を強

問 令和8年度は中山間地域振興基本計画に基づく取組が動き出すことになる。計画では全市が中山間地域とされているが、実際の施策は、周辺部の振興に重点を置くという戦略の中で、中山間地域の振興を進めていくということか。

答 市内全域を中山間地域と位置づけているが、事業の実施、計画の実施においても、周辺部を強く意識しながら進めていく。

清流会

問 担い手不足の克服に向けた考えを問う

答 人口減少が進むなか、
住民参画意識を高める取組を進めていく

個性を發揮してもらいたい。

問 今後とも人口減少が見込まれ、地域の担い手不足も一層顕在化することが予測される。集落の機能低下や伝統芸能の衰退、農林水産業をはじめ経済活動の縮小等、市民生活への影響が大きく懸念されるが、担い手不足克服へ向けた考えを問う。

答 既存の住民参画意識を高めていく取組を粘り強く進めていくとともに、地域外からの担い手を確保していく。

問 山陰道三隅・益田道路が開通するが「道の駅構想」を問う。

答 具体的に道の駅の検討はしていないが、今後中吉田公園や山陰道の整備状況などの変化に応じて検討をする。

問 令和11年4月開校予定の職業能力開発短期大学の施設方針に対し、準備体制を問う。

答 市内の高校に対し情報提供や、地元企業に積極的な交流や雇用をお願いして就職先の確保につなげる。



会派代表
このの 河野 としふみ 利文 議員



益田市観光振興計画



会派代表
てらい よしのり 寺井 良徳 議員



職業能力開発短期大学校が
開校予定の県立西部高等技術校

問 ドクター等サポート推進事業を問う

答 研修期間中の宿泊費を当市が支援し、将来の赴任につなげていく



とよ ひろし 議員
豊 田 浩



を市が負担するものである。臨床実習を契機に地域医療への関心を高め、将来の赴任につなげることが狙いで、過去には実習時の雰囲気の良いから赴任を決めた医師の声もある。取組の積み上げにより、研修医・医師として市内で従事する道筋を構築し、地域医療を担う人材の確保を目指していく。

問 医師不足に歯止めをかけるためドクター等サポート推進事業を実施し、医師を目指す学生へ支援を行っている。令和7年、赴任医師歓迎事業とは別に208万円の補正予算が計上され、医学生が市内の病院で臨床実習を受けることを推進するため、実施期間中の医学生の宿泊費用を当市が負担することとなつている。研修生はどのような思いを描いて当市に来るのか、また医師の声、研修生の声について問う。

答 本事業は、令和8年1月から、島根大学医学部学生の臨床実習における宿泊滞在費用が大学負担から個人負担へ変更されたことに伴い、当市において臨床実習する医学生の宿泊費用および施設使用料



問 給付型奨学金創出の可能性は

答 全額免除制度の効果を見ながら、将来的なあり方を検討していきたい



たか とも のり 議員
高 橋 伴 典



問 益田市奨学金について、令和7年度から条件付きの全額免除貸付型を盛り込んだ理由と、今後の給付型奨学金制度の創出の可能性を問う。

答 経済的事情等により就学が困難な学生および生徒の進学機会を保障し、将来的な地域への定着や貢献を後押しする仕組みの構築を目的としている。給付型奨学金制度については、全額免除制度導入効果等を見ながら、将来的なあり方について検討していきたい。

問 益田市型中高一貫教育によって、市内の全ての児童・生徒がそれぞれの段階で選択肢を増やし、将来の可能性を広げるとしているが、この選択肢と可能性とは具体的に何を指し示しているのか。

答 子どもたちは、自身の夢や興味関心を含めて、どう生きるのかということを探求しながらも、さまざまな節目において、進むべき道あるいは進みたい道を主体的に選択することになる。そのことを前提に、本事業での選択肢とは、中学校や高等学校卒業後の進学や就職といった進路選択を想定している。また、可能性は自らのやりたい、なりたいたいという思いを自ら学びによってどこまで実現できるのかということであると考えてい



益田市教育に関する大綱

個人質問



すとう ひふみ 議員
須藤 一二三



問 市外での不妊治療、交通費助成への対応は

答 県の制度の内容や利用状況を注視し、支援のあり方を検討していく

問 不妊治療費助成制度の申請件数・助成額と、不妊治療等を経て出産に至った件数を問う。

答 令和7年度は8年2月末現在で37組、延べ43件。6年度は42組、延べ45件。7年度および6年度に治療を経て出産に至ったのは、2月末現在で25組。

問 当市での不妊治療で最も深刻な構造的問題は、移動距離である。県内で体外受精等の生殖補助医療を実施できる医療機関は、松江・出雲市の3病院のみ。益田赤十字病院・益田医師会病院でも一般不妊治療は受けられるが、生殖補助医療へのステップアップが必要になり、島大附属病院で治療を受ける場合、片道約2時間かけ通院せねばならない。こども家庭庁は、



約10人に1人が体外受精などの生殖補助医療で誕生

自宅から最寄りの対象医療機関まで片道60分以上かかる場合の交通費の8割を助成する事業に、8年度から新たな補助対象として産婦健診、不妊治療等を追加すると示し、島根県で来年度拡充される見通しである。当市の対応方針を問う。

答 不妊治療は身体的、精神的な負担に加え、経済的な負担も大きく、今回の拡充は負担の軽減にもつながる。今後、県の制度の内容や利用状況を注視し、当市の実情を踏まえ、どのような支援のあり方が適切か現状把握に努め検討していく。



おおく ほんごろう 議員
大久保 五郎



問 老朽化が進む美都温泉、匹見峡温泉の方針は

答 基本構想及び基本計画を令和8年度に策定予定

問 美都温泉および匹見峡温泉の指定管理料増額への見解を問う。

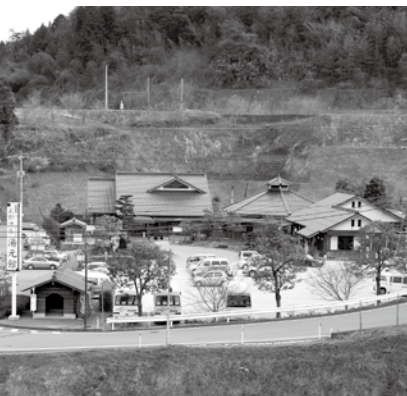
答 両施設とも老朽化が著しく、緊急の対応が必要な修繕等が多発している。水道光熱費や人件費の上昇等を考慮して算定した結果増額となったが、安心・安全な利用のためには必要な対応である。

問 直近3年間の温泉利用者数の傾向を問う。

答 美都温泉は平均約6万人台、匹見峡温泉は約2万人台を維持している。

問 それぞれの指定管理者について、市の管理・監督が必須である。経営者との会議の状況を問う。

答 両施設ともに連携を密にし、運営会議には市職員も出席し報告を受けている。意見として老朽化



美都温泉「湯元館」

による緊急修繕、改修の対応を求められている。

問 行政運営の効率化等、特に人件費の抑制の取組を問う。

答 人件費については上昇しており、単価よりも職員数のあり方に注目しているが、単純な人員削減は困難である。

問 デジタル化の推進、生成AIの活用等による市民の利便性向上と内部効率化について問う。

答 市民サービスの向上と職員の働き方改革を同時に実現する上で重要な取組である。

問 福祉タクシー利用助成の実績を問う

答 対象者を拡大したほか、交付枚数を増やして制度を拡充し実施している。



おね 宗 議員
ふくはら 福原



問 手話通訳者配置介護事業所の状況を問う。

問 福祉タクシー利用助成の実績を問う。

答 従来は対象者を特別障害者手当受給者と身体障がい者のうち重度の下肢、体幹機能障がいならびに視覚障がいに限定していたが、令和6年度からは内部障がいも含めた身体障害者手帳1級、2級、精神障害者保健福祉手帳1級、療育手帳A所持者へ拡大した。一人当たりの交付枚数も拡充したことから、利用者数は令和5年度176人から令和6年度311人へ、利用枚数も1,850枚から4,999枚へ増加した。

問 共同生活ホーム建て替えについての現状を問う。

答 指定管理者と協議中である。



拡充された
益田市福祉タクシー利用助成

問 食の安全基準は非常に重要。自由貿易を加速すると価格競争が進み、健康被害が危惧される。安心安全な食の確保はどうあるべきか、市民にどのように周知していくのか。

答 地域の実情に合った食育・地元産の消費、食と農のつながりの深化を図っていく。

問 二地域居住政策の位置付け・導入検討を問う

答 関係人口の深化の先に二地域居住があり、引き続き研究をしていく。



かつひろ 勝廣 議員
さいとう 齋藤



証・評価を行い、審議会の意見を参考に、必要に応じて事業内容の見直しや改善を図る。

問 令和8年度施政方針に掲げた重点施策で、中でも人口減少対策について、具体的な数値目標・進捗管理方法の設定と、成果が上がらなかった場合の見直し方針の見解を問う。

答 第3期まち・ひと・しごと創生益田市総合戦略において、地方創生、人口減少対策に関わるものを抽出して策定することとしている。この中の横断戦略、基本戦略に基づく各施策には、効果的かつ効率的な展開を図るために具体的な数値目標を設定している。数値目標は全てが地方創生、人口減少対策に結びつくものであり、これを達成することが重要である。進捗管理については、益田市総合戦略審議会にて、毎年度施策の効果の検

問 二地域居住の戦略的推進で、将来的に定住へとつながる二地域居住を人口減少対策施策の中でどのように位置付けているのか、政策導入の検討状況を問う。

答 二地域居住は、地域の担い手確保や消費等の需要創出、新たなビジネスや後継者の確保、雇用創出、関係人口の創出・拡大が図られる社会的意義がある。関係人口の深化の先にあるのが二地域居住と認識しており、二地域居住のあり方を引き続き研究していく。



全国二地域居住等促進
官民連携プラットフォームHPより

個人質問

問 市街地周辺部のこれからのあるべき姿を問う

答 互いに支え合い、人々が誇りと生きがいをもって豊かに暮らしていく姿

問 この先、地域でできることが限られる中、地域で暮らし続けていくために、私たちはいろいろな取組を考える必要がある。住民に、本当にここに住んでよかったですと思われる地域であり続けてほしいと思う。市街地周辺部のこれからのあるべき姿について問う。

答 縮充による中山間地域の実現を基本に掲げており、地域づくりを進めていくには、共助の育成がカギを握るものと思っている。一人ひとりが抱える問題を互いに支え合い、そこに暮らす人々が誇りと生きがいをもって豊かに暮らし、生きていくことが思い描く姿であり、行政としても関係課が連携し伴走していきたいと考えている。



かわもと あきら
河本 亮 議員



芝桜植栽による地域を守る環境整備

問 第七次エネルギー基本計画が発表され、再生エネルギーに関する方針の転換が図られている印象を受けている。匹見での風力発電をはじめ、再生エネルギーに対する姿勢を問う。

答 益田匹見風力発電事業については、現在、島根県・発電事業者・漁協等で協議を重ねている段階と認識しており、再生可能エネルギー導入には、関係者の同意を得て行われるべきと考える。今後、住民・関係者の理解を得ながら、益田市地球温暖化対策実行計画に基づき施策を進めていく。

問 中吉田公園の今後の具体的な展望を問う

答 平時も非常時も活用できる公園を目指し整備していく

問 中吉田公園の防災・減災への考えや今後の具体的な展望を問う。

答 中吉田公園を活用した賑わい創出の場の具体案を検討し、防災機能を有し、平時も非常時も活用できる公園を目指して整備していく。

問 少しでも安心して避難できる環境は必要と考える。避難所に赤ちゃんベッドが必要ではないか。

答 次年度計画に基づき赤ちゃんベッドの整備を検討する。

問 お産あんしんネットワーク事業は、補助対象者に産婦検診、産後ケア、乳幼児健診および不妊治療を追加した県の事業である。移動にかかる交通費および宿泊費の

一部を支援するものだが、見解を問う。

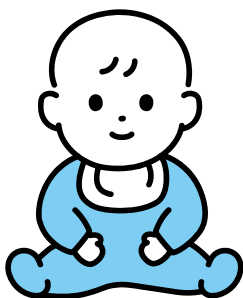
答 県の制度内容や利用状況を注視するとともに、当市の実情を踏まえ、現状把握に努めながら検討していく。

問 看護DX推進事業は、病院が行う看護現場の業務負担軽減のためのICT導入に要する費用の一部を支援できるものである。見解を問う。

答 看護師が働きやすい職場となり、看護師の確保・定着のため県や関係機関と連携し、各医療機関が看護DXを推進できるよう可能な支援について検討する。



ながと あけみ
永戸 明美 議員



問 「縮充」社会実現の推進体制は

答 協働推進ネットワーク庁内会議の再構築で実効性を高める



おおが みつなり 議員
大賀 満成



問 令和7年12月に策定した「益田市中心地域振興基本計画」に掲げる「縮充」社会の実現を、実効力ある計画とするためにどのような推進体制を考えているのか問う。

答 「縮充」の考え方については、丁寧に説明した上で段階的に進めていくことが重要である。そのため、協働推進ネットワーク庁内会議を再構築し、積極的に地域の話し合いの場に参加し、地域づくりについて共に考えていく。また、各地区の地域自治組織役員をはじめとする関係者と計画の進捗に関する取組会議を開催することで、実効性を高めていく。

問 本市では、公共施設等総合管理計画を策定している。「縮充」の理念に基づき公共施設の最適化



旧小野中学校校舎に移転した戸田小学校

答 「縮充」の考え方において、人口が減少しても、地域住民が豊かに暮らし続けるためには、公共サービスを受けるために必要な施設は維持するべきと考へる。「縮充」の基本方針を踏まえ、公共施設等総合管理計画に基づき、地域で活用する公共施設を集約化する。その場合などには、地域住民や活用状況を踏まえ、施設の総量の適正化を進めていく。

問 タスクシフト推進のための特定看護師の確保は

答 県で研修実施や財政的支援が行われている連携していきたい



ひらはら ゆういち 議員
平原 祐一



問 全国的にも医師の過酷な勤務実態が報告されている。当市も同様ではないか。医師の使命感と自己犠牲に依存して地域医療が維持されている。医療維持に向け、どう対応しているか。

答 ドクター等サポート推進事業や赴任医師歓迎事業等により、医療機関への支援や医療従事者確保に努め、地域医療の維持、確保を図りたい。

問 医師確保の取組と併せ、医師を簡単に増やせないことを前提に、取組を進めるべきである。タスクシフトは、医師の業務のうち他の業種に委ねることができる業務を移管することで、医師の労働時間を削減する取組だ。医師があらかじめ作成した手順書に従って、医



医師の働き方改革
出典：厚生労働省ホームページ

答 県の判断を待たずに実施できる特定行為は、研修を修了した看護師である特定看護師が実施できる。今後、特定看護師をどう確保するのか。

答 県において特定行為研修を行う指定研修機関を鳥根県立大学に設置され、受講促進が図られている。また、県医療介護総合確保促進基金事業費補助金において、特定行為研修関連教育受講支援事業として財政的な支援も行われている。当市は直接的な養成や確保には取組んでいないが、県と連携し、特定看護師の養成や確保に取組んでいきたい。

問 米軍機の低空飛行訓練への対応を問う

答 防衛省・外務省及び地元選出国会議員に対し、要望活動を行う

問 米軍機の騒音件数が、島根県西部で2,026件と過去3番目の多さだという報道があった。令和7年に匹見地区で70dB以上の騒音が測定された件数は212件であった。大変ひどい状況である。

答 米軍機騒音等対策協議会の総会が開催され、令和8年度の国への要望について確認されたが内容について問う。

問 市民生活に影響を及ぼす重大な問題である。米軍機騒音等対策協議会では、島根県要望と連携し、防衛省・外務省および地元選出国会議員に対し、要望活動を行う。

答 内容は、①低空飛行の中止に加え、行事・式典の日や休日に訓練を行わないこと。②国による実態把握と実態の伝達等として、騒音

測定器の増設や速やかな結果の提供。③訓練区域の実態に応じた学校等の防音対策など必要な措置。④飛行訓練に係る情報開示。⑤陸地上空での空中給油の中止。となっている。

問 危険な訓練を行っているのに、国に対して強く要望してもらいたい。

答 米軍に何らかの変化があるように強く要望していきたい。

問 学校給食の無償化の取組を問う

答 小学校は実現できたが中学校については今後の動向を注視したい

問 学校給食の無償化について、義務教育でありながら、小中学校で差があることに違和感を感じるが市長の思いを問う。

答 小中の区別がついている理由の説明は受けておらず、理解しかねるところだ。今後の動向を十分注視したい。

問 公民館活動の状況を問う。

答 規則に基づき、各種事業を展開しており、昨年度の参加人員は延べ11万6千人余りとなっている。

問 公民館の整備計画、公民館長の活動支援について問う。

答 益田公民館は地元の要望を受け旧旅館跡に移転した。毎月開催の協議会で円滑な運営が図られるよう努めている。

問 本市におけるいじめの状況と対応を問う。

答 令和7年度12月末で小学校245件、中学校151件の発生があり、情報共有を図り取組を進めている。

問 学校における感染症の状況と授業時間数の確保について問う。

答 1月から2月にかけてインフルエンザの流行があり、小学校532名、中学校210名が罹患し、学級閉鎖の措置を取った。換気回数増や加湿器の配置等、適切に対応をした。また、授業時間数については、年間30時間程度の余剰時間を設定しており、確保できている。



あだちみつこ 議員
安達 美津子



匹見分庁舎の騒音測定器



あちはたけお 議員
阿知波 武雄



高津学校給食センター

議案等の審議結果

3月定例会では冒頭、市長の令和8年度施政方針が表明されました。議会では、令和8年度一般会計予算などの審議を行いました。また、令和7年度一般・特別会計補正予算のほか、条例の制定などを審議し、原案どおり可決しました。

出席議員全員が賛成した議案

(全会一致で、議案は「可決」、人事案件は「同意」「適任」、報告案件は「承認」とされました。)

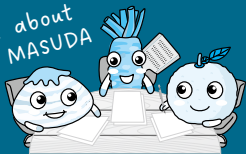
議案番号	件名	議案番号	件名
市長提出議案			
報第1号	専決処分の報告について	議第23号	益田市立開発地営農研修センターの指定管理者の指定について
報第2号	専決処分の報告について	議第24号	土田海岸公益施設の指定管理者の指定について
報第3号	専決処分の報告について	議第25号	益田市定住住宅の指定管理者の指定について
議第1号	益田市行政手続条例の一部を改正する条例制定について	議第26号	益田市辺地総合整備計画の策定について
議第2号	益田市印鑑条例及び益田市手数料条例の一部を改正する条例制定について	議第28号	益田市消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例制定について
議第3号	益田市職員等のハラスメントの防止等に関する条例制定について	議第29号	令和7年度益田市一般会計補正予算第7号
議第4号	益田市子ども・若者支援センター設置及び管理に関する条例制定について	議第30号	令和7年度益田市介護保険特別会計補正予算第4号
議第5号	益田市福祉施設照明LED化事業分担金徴収条例の一部を改正する条例制定について	議第31号	令和7年度益田市国民健康保険事業特別会計補正予算第4号
議第6号	益田市立デイサービスセンター設置及び管理に関する条例の一部を改正する等の条例制定について	議第32号	令和7年度益田市後期高齢者医療特別会計補正予算第4号
議第8号	益田市見越バス代替運行に関する条例の一部を改正する条例制定について	議第33号	令和7年度益田市匹見財産区特別会計補正予算第1号
議第9号	益田市立小学校及び中学校設置条例の一部を改正する条例制定について	議第34号	令和7年度益田市駐車場事業特別会計補正予算第2号
議第10号	益田市教育支援センター設置条例制定について	議第35号	令和7年度益田市下水道事業会計補正予算第4号
議第11号	益田市奨学金貸付条例の一部を改正する条例制定について	議第36号	第6次益田市総合振興計画後期基本計画の策定について
議第12号	益田市社会教育委員条例の一部を改正する条例制定について	議第37号	益田市過疎地域持続的発展計画の策定について
議第17号	令和8年度益田市匹見財産区特別会計予算	議第38号	行政不服審査会委員の委嘱について
議第18号	令和8年度益田市駐車場事業特別会計予算	議第39号	情報公開・個人情報保護審査会委員の任命について
議第19号	令和8年度益田市下水道事業会計予算	議第40号	固定資産評価審査委員会委員の選任について
議第20号	令和8年度益田市水道事業会計予算	諮問第1号	人権擁護委員候補者の推薦について

賛否の分かれた議案

(棄権、除斥があった場合も含まれます。)

議案番号	件名	審議結果	賛成	反対	佐々木 恵二	須藤 一三三	豊田 浩	永戸 明美	阿知波 武雄	平原 祐一	齋藤 勝廣	河本 亮	高橋 伴典	中島 賢治	大賀 満成	河野 利文	安達 美津子	中島 卓守	林 卓雄	大久保 五郎	福原 宗男	寺井 良徳	久保 正典
市長提出議案																							
議第7号	益田市介護保険条例の一部を改正する条例制定について	可決	17	1														●					
議第13号	令和8年度益田市一般会計予算	可決	17	1														●					
議第14号	令和8年度益田市介護保険特別会計予算	可決	17	1														●					
議第15号	令和8年度益田市国民健康保険事業特別会計予算	可決	17	1														●					
議第16号	令和8年度益田市後期高齢者医療特別会計予算	可決	17	1														●					
議第21号	益田市立授産施設の指定管理者の指定について	可決	17	0						除													
議第27号	益田市国民健康保険税賦課徴収条例の一部を改正する条例制定について	可決	17	1														●					

○：賛成 ●：反対 欠：欠席 棄：棄権 除：除斥
 ※ 議長（佐々木 恵二）は採決に加わりませんが、可否同数となったときは、議長が裁決します。
 ★ 除斥とは★ 議会における審議を公正なものとするため、議題となった案件と利害関係にある議員をその審議に参加できないようにすることです。



議案等の審議結果 ~こんなことが決まりました~

令和8年度一般会計予算を可決しました

一般会計予算総額…… 291億5,000万円
対前年比…………… 12億4,700万円 増額

総務費

持続可能な地域づくり推進事業費
1,338万1千円

「益田市中山間地域振興基本計画」に基づく体制構築支援事業

乗合タクシー運行事業費 1億781万2千円

日常生活に必要な住民の移動手段確保のためのタクシー運行

土木費

公共工事残土処理場整備事業費 1,300万円

益田市が管理する残土処分場を整備し、盛土規制法に基づく基準で適切に残土処分を行う

南部区画整理関連公園事業費
5億5,653万2千円

土地区画整理事業に伴う中吉田公園及び中吉田中須線整備に係る事業費

農林水産業費

選果施設等整備支援事業費 7億1,155万円

老朽化した選果場の更新に伴う新選果場整備事業費の補助

高津川流域森林計測・道路台帳統合事業費
2億8,471万7千円

航空測量を基に森林資源データ及び道路台帳データの電子化

教育費

学校給食費支援事業費 1億2,446万2千円

小学校課程の給食費を全額公費で負担

島根かみあり国スポ・全スポ関係事業費
推進事業費 1,231万3千円
施設整備事業費 2,244万5千円

2030年開催予定の島根かみあり国スポ・全スポに係る事業費

令和7年度一般会計補正予算を可決しました

補正後の一般会計予算総額…… 304億4,049万9千円
補正額…………… 8億3,337万7千円 増額

総務費

地方バス路線維持対策費補助金
5,386万9千円

運行実績の確定及び走行キロ単価額の上昇による増額

商工費

ますだ生活応援事業費 3億3,250万円

物価高騰に伴う各世帯への経済支援及び地域経済回復のため、「ますだ生活応援券」発行に係る事業費

民生費

島根県低所得世帯緊急支援給付事業費
2億869万6千円

令和7年度住民税非課税となった世帯に対する給付事業（1世帯当たり3万円の現金給付（要件あり））

教育費

高津学校給食センター管理運営経費
2,300万4千円

国庫補助事業の追加採択に伴う増額
高津学校給食センター内空調機器更新工事

審査結果

各委員会で審査した結果を
抜粋して掲載します。



総務文教委員会

公共施設等総合管理計画等が改定される

「益田市公共施設等総合管理計画」は、公共施設やインフラ資産について、統廃合・長寿命化等を長期的な視点で計画的に進めるため、平成28年に策定、令和7年度末で総合管理計画および個別施設計画が終了することから、5年間の検証結果を踏まえ、次期5年間の取組方針を更新。今後の各施設の建替え、譲渡、除却などの取組内容を精査、集約し、課題の見直しが行われた。

図 総合管理計画に基づき、複合化や減築など厳しい整備を受け入れてきた施設がある一方で、別の施設ではフルスペックでの建て替えが行われるようでは、一貫性を欠くと考える。将来世代への責任も考えなければいけない中、この計画を整備の前提として庁内で徹底して運用していくべきではないか。また、合併前からの施設が多く残る匹見・美都地域では、老朽化した建物が手つかずのまま残り続けており課題となっている。た

だ削減ありきではなく、その地域をこれからどうしていくかというまちづくりの考え方が前提になれば、計画自体も進められない。丁寧なまちづくりの方向性を描いた上で計画を推進していくべきではないか。

【答】策定して終わりではなく、増築・新築・複合化・解体のいずれの場合も、各部署がこの計画を意識して進めるよう改めて周知徹底する。現計画では目標数値の達成が厳しい状況を踏まえ、住民等の関係者と向き合いながら、職員への周知に取組む。また、公共施設とまちづくりはセットであり、住民の活用状況を踏まえて政策と一緒に進める。



旧澄川保育所

福祉環境委員会

益田市子ども・若者支援センター移転

益田市子ども・若者支援センターは、現在赤城町に開設しているが、旧戸田小学校校舎に移転することになった。同施設では、困難を有する子どもや若者、その保護者や関係者からの相談を受けるとともに、さまざまな活動を通して、学習や就業意欲を高めるためのサポートを行い、次のステップに踏み出せるよう支援を行っている。

図 移転により、「施設を利用したくても利用できない、もしくは、通うことが困難な方がいるのではないか」との意見もある。今後の対応についてももう少し協議するべきではないか。

【答】公共交通機関で通う方法を模索したり、別の機関の利用も含め、当事者と協議を進めている。引き続き丁寧な対応をしていきたい。図 子ども・若者支援センターがどういうものであるか、ふれあい学級はどういうものであるかというところを丁寧に説明しないと、関わりを持ちたいと思う人がどの

ように対応したら良いのかわからないこととなる。当施設に通うことによつて、良い効果が期待できるものもあると思うので、地域住民の方を巻き込んだ関わりを進めていくべきだと思うがどうか。

【答】令和7年に地域住民の方に説明し、意見も聞いた。受け入れについては、前向きな意見と不安点も聞いている。今後移転してから、地域住民とも説明会などを行いながら、一緒に取組を進めていく。



移転先の旧戸田小学校校舎

常任委員会

経済建設委員会

緊急銃猟実施マニュアルが新規作成される

緊急銃猟制度が施行されたことによって、銃器を用いた対応を市が実施できる枠組みが整備されたこと等を踏まえ、益田市危険有害鳥獣等出沒対応マニュアルと緊急銃猟実施マニュアルが新規作成された。

問 特定鳥獣保護管理計画の実施状況を問う。

答 島根、広島、山口3県において、山間部にセンサーカメラ等を設置し、個体数を測定する調査を令和7年度に実施している。

問 当市の担当職員の体制を問う。

答 専門職を含む職員4名の体制で、県や警察等とも連携し、対応する。

水道事業を取り巻く環境は、料金収入の減少や施設更新費用の増大などが進み、ますます厳しさを増しており、このような変化への対応と今後10年間を見据え、持続可能な事業運営の推進を目指すため、水道事業経営戦略の改定を行

うこととしている。

問 更新費用はここ数年で著しく増加している。財源の確保を問う。

答 水道事業は独立採算制という制度にのっとって運用しているため、水道料金で賄う安全・安定的な経営ができる計画を立てる必要がある。

今後、料金水準や妥当性を審議していく必要がある。



広島・島根両県で捕獲された履歴のあるツキノワグマ

一般会計予算審査委員会

令和8年度一般会計予算審査

◆◆広報広聴経費◆◆

問 広報については、しっかりと外部に情報発信していくためには、予算をかけ専門家を入れてでも戦略を練るべきだと以前から指摘している。新たな取組をしようとするならばなおさらである。

例えば、「ええとこますだ発信隊」というSNSを活用した事業が始まったが、発信効果を高めるための工夫が足りないように見受けられる。また、そのために必要な予算は措置すべきである。

広報戦略をきちんと考えていくべきだと考えるがどうか。

答 しっかりと肝に銘じて取り組んでいきたい。戦略を練るなかで予算も獲得していきたい。

◆◆観光振興団体支援事業費◆◆

問 非常に大きい事業費となっている。一般社団法人ますだプライドクリエイションと市内3つの観光協会、それぞれの役割の明確化や体制の整理を行いながら、今年度進めて欲しいと考えるがどうか。

答 それぞれの観光関連団体の役割分担に関しては、観光振興計画の中でしっかりと明記し、市民にも分かりやすく説明できるように改めていきたい。また、3つの観光協会の今後についてだが、現在各組織において今後の方向性について議論検討を進めてもらっており、こういったものを踏まえて市として考えていきたい。

ええとこますだ | 島根県益田市公式

196 646 61
投稿 フォロワー フォロワー中

島根の西の端っこ、益田市の【公式】アカウント。
益田のちょっといいところ、
ちょっと気になることを、のんびりお届けしていきます。
#ええとこますだ | 週1~2回更新中
@masuda_city
www.city.masuda.lg.jp/ind...、他3件

「ええとこますだ」Instagram



今回は、ふるさと・ひとつなぎコーディネーター
善家 瑛徳さん・小山 琴帆さんにお話を伺いました！

Q. 益田市でコーディネーターになったきっかけはなんですか？

善家) 元々教員で、縁あり益田市へ来た中で、さまざまな人と知り合い元気もらったことです。また、コーディネーター業務が自分の性格に合うことや、自分の小中学校時代には家と学校の行き来しがなく、その経験から、子どもたちにたくさんの人と関わりを持ってほしいと思ったこともきっかけのひとつでした。

小山) 大学時代に益田市に4回滞在し、地域の方と交流したことがきっかけです。

Q. 現在はどんな活動をしていますか？

善家) 独居の高齢者宅の訪問や、学校・地域を回りさまざまな声(本音・悩み・願い等)の思いを受け止め、公民館や学校へ届け地域とつながる取組をしています。「ひとまるミーティング」で地域にアンケートを実施し、集約したアンケートを自治組織に届けたり、小野地区には「海風遊舎」があるので動画を作ったり。20代・30代と保護者世代の触れ合いの場なども設けています。イベントより知り合う事に力を注いでいます。

小山) 総合的な学習の時間や長期休みのすたでいペース豊川の企画・運営に関わり、学校や公民館等と連携し、子どもたちが地域の方と関わりながら学ぶ機会づくりを進めています。放課後には小学校の地域交流スペースを活用し、中高生の居場所づくりにも取組んでいます。

Q. 益田市の印象は？

善家) 「いいね」と言ってくれる人が多いですね。対話を大切にしている。思ったより都会と感じました。

小山) 人の温かさを感じる地域。「いってらっしゃい」「おかえり」「またまっているよ」等、地元にいた時よりも益田にいるときの方が人との関わりが多く、受け入れてくれる温かさがあると感じました。

Q. コミュニティスクール(コミスク)についてどう思いますか？

善家) 対話を大切にしたい。どんな学校・地区になったらいいか・嬉しいかなど、話をする中で方向性が出てくるのでは。

小山) 地域全体で子どもを見守り育てる関係性を仕組みとして整えたものだと考えています。

Q. 今後の夢を教えてください！

善家) まち全体がひとつの方向性を見出し、それを普通に地域の人が語れるようになったらと思っています。

小山) これからも学校や地域のみなさんと協力しながら、人と人がつながり、笑顔が広がる豊川地区をつくっていきたいです。



善家 瑛徳
戸田小学校コーディネーター
愛媛県出身
令和6年10月に移住。



小山 琴帆
豊川小学校コーディネーター
神奈川県出身
大正大学3年生の時に益田での地域実習が縁となる。



活動の様子

議会の活動



市公式ウェブサイトにおいて、議会(議員)の活動の一部を掲載しています。

なお、議長は議会の代表として総会などにも出席しています。

※定例会・臨時会・委員会・調査会は除きます。

[議会カレンダー](#)

[検索](#)

**ケーブルテレビ
(ひとまるビジョン)**

- ▶定例会・臨時会
どちらも放映
生放送(111ch)
- ▶一般質問
再放送(112ch)

→ 議会を傍聴しませんか？

議会は、どなたでも見たり聞いたりできます。詳しくは、議会事務局へお問い合わせください。

次回定例会の予定

次回定例会の予定は、6月2日(火)~24日(水)です。
なお、正式決定は5月中旬の議会運営委員会で行います。
詳しくは、議会事務局までお問い合わせください。

議会事務局 ☎ 31-0490

編集後記

今号の編集時期である3月下旬。くしゃみ、鼻水、目のかゆみ。春の陽気とともに、今年も花粉の季節がやってきました。マスク姿で行き交う人々の姿に、すっかり春の風物詩となった花粉症を実感します。私もかれこれ20年以上の付き合い。スギの後はヒノキ花粉がパトンを受け、例年5月の連休頃まで目に見えない隣人たちの戦いに悩まされています。

大手家電メーカーの調査によると、花粉症による1日あたりの経済的損失は、全国でおよそ2,450億円にのぼるとされています。仕事での集中力低下による生産性の損失はもちろん、医療機関への受診費用や薬・点眼薬の購入費など、個人の負担も決して小さくありません。また、花粉症を含むアレルギー性鼻炎の医療費は、保険診療で約3,600億円と推計されています。

春の風物詩とは言いながら、その影響は家計にも保険財政にも静かに及んでいます。

議会としても、医療・保健環境の充実や市民生活の質の向上に、引き続き真摯に取り組んでいきたいと考えています。花粉に負けず、今号もぜひ最後までお目通しいただければ幸いです。どうか健やかな春をお過ごしください。

(須藤 一三三)

編集委員

委員	委員	委員	委員	委員	委員	副委員長	委員長
高橋 伴典	齋藤 勝廣	阿知波 武雄	永戸 明美	豊田 浩	須藤 一三三	平原 祐一	安達美津子